

と共に海氷も調べるので耐氷型。

G E K、8000m深海音響測深機、前部に8000mテーバードワイヤー付深海用電動ウインチ、後部に3000mワイヤー付電動ウインチ、B T、自記水温計、サリノメーター、ロラン、レーダー、ジャイロコンパス等。

(3) 神 鷹 丸 (東京水産大学練習船)

昭和38年4月20日竣工(下関林兼造船株式会社)。総トン数382.07トン、長さ42m最大船速13.39ノット、航続距離8,500浬水中観測窓2個、音響測深機1万m(1)、1000m(1)、G E K油圧式15HPウインチ(3500m)等士官8、教官2、属員14、学生44、

(4) 明 洋 (海上保安庁水路部測量船)

昭和38年3月15日竣工(名古屋造船株式会社)は500トン型としての代船で、排水量485.77トン、全長44.5m、700P.S. 速力(最大)12ノット、油圧式77P.S. ウインチ(8000m) G E K、精密自動塩分計など。

9 外国新造調査船

宇 田 道 隆 (東京水産大学)

(1) 米国水産海洋調査船 Albatross. IV 新造

米国は最近議会への報告に水産海洋調査振興により、かつて日本に次ぐ生産をあげていたのが現在日本、ソ連、中共、ベルーに次ぐ才4位に落ちたのを挽回しようと、La Jolla(加州)、Ann Arbor(ミシガン)、Beaufort(ノース・カロライナ)、Seattle(ワシントン州)の水産研究所充実に加えて、海軍大型曳船2隻に新造船Albatross IV

の調査船で漁業調査と海洋調査に新しい努力を開始した。Albatross N は 187 フィート長の船ある。船員 22 名のほか科学者 16 名乗船調査。Albatross I の 1882 年以來の調査活動の伝統をうけつぐ決意を示している。その最初の大西洋側調査計画は、ケープ、コッド沖のジョージバンク漁礁上の底魚漁場調査である。

- (2) アルゼンチン水路部 (Captain L.R.A. Capurro) の海洋調査計画は、Tridente I (1962 年 7 月 10 日 - 9 月 10 日) Capitan Canepa 号で $42^{\circ} W$ 、 $35^{\circ} S - 47^{\circ} S$ と海岸の間の物理、化学、生物調査、Eqvalant I (熱帯で推進機船尾トローラーで、浮上研究所として、(i) 底魚とホタテガイ類の分布数量の図示、(ii) 魚族ストック (資源量) の季節的変化および長年変化を起す環境原因の研究、(iii) 底魚の食餌供給を形成する底棲生物データの収集、(iv) 一般的プラクトン群集と海況調査を目的とする。研究施設としては、乾湿両実験室に、写真実験室、電子工学研究室、漁獲魚類船上検査実験室、ソーナー、水中テレビジョン、船上テレビジョン、水中電磁ログ等が大西洋協力調査) 参加、Drake II (1962 年 10 月 30 日 ~ 1963 年 3 月 30 日) Comandante General Zapiol 号でテキサス農工大学海洋学部と協同でドレーク海峡の深層流と生産力を測定、Antartida 1962/63 (ラモント地質研究所と協同) で砕氷艦 2 隻で、ウエツデル海、ドレーク海峡、スコチア海の海底地形と地球物理調査等が次々予定された。

- (3) Atlantis II ウツホール海洋研究所 (WHOI)

新造海洋調査船 (2300 トン、210 フィート長)。双子プロペラ、重往復 機関、それに船首に 1 個のプロペラがあり、右舷左舷に船首を動かすに役立つ装置。深海用自動カメラ、アンテナ付水中聴音器用ブイ、海底推積物及生物用ドレッジ等。